



平成27年 3月15日

8面 76面 52面
公民館研究集会
みんなの仲良く
青年の家だより
スポーツ・情報
福祉を考える集會
まつかわ大学・こどもの詩
川柳・短歌
オプジェ
上大島文化芸術祭
生田芸能文化祭
視点・ペンペン草



「梨の棚付け」

「棚付けだけするのも良いけど、剪定しながらの方が、枝の流れが分かっ
てうまく出来るような気がするんな」オバさんのつぶやき…？

今年の研究集会のテーマは、「公民館で結び、若者と地域をつなげる」今どき若者は…です。協議の資料の一つにするために若者からアンケートをとりました。その中で、はつとする記述がいくつかありました。中学生「松川町のみんなが登下校時に声をかけてくれる。」高校生「地域の皆さんが明るく、すれ違ふときに挨拶が返ってくる。」

主張

あいさつができる松川が好き ～若者へのアンケート調査結果より～

若者「子どもも友人もあいさつしてくれる」などなどです。そして、調査項目「松川町が好きなところ」の集計結果で『挨拶ができる』と答えた中学生14名全体の10%。高校生4名6%。若者1名。このアンケートは記述式ですので感じていることをストレート書きます。ですのでこの数字は重たいものがあります。年度末にまとめる公民館事業報告の中に「声をかける前に挨拶をする子どもが増えている」という声が多くなっています。このこととアンケート結果が繋がってきます。挨拶が少しずつですが、広がり、「あいさつがよくできる松川が好き」と感じる人たちが確実に増えてきています。平成16年に行われた第41回研

究集会、今から11年前、「子育ては地域みんなで」の分科会で「あいさつから始まる地域づくり」そのために、大人からあいさつしよう”そんな内容で協議をされ、それを本館社会部が受け、挨拶運動を始めました。挨拶運動の趣旨を書いた模造紙が公民館の壁に貼られています。「初めは小さな波でも、一人ひとりの意識が変わっていけば大きな波になるはずです」という一文が目に残ります。社会部から地区館、他の本館部員へ、また、役場の青年部へと挨拶をする人の輪が広がっています。月一度月曜日の朝、若者から壮年、シニアの方など、様々な世代の方々が街頭に立ち、子どもたちに「おはよう」と声をかけています。私は、勤めの関係で、県内を転々としてきましたが、このような挨拶運動を展開しているところはありませんでした。10年余り経ちました。少しずつ大きな波になっています。最近の動きの中に、「省力、効率、そして成果」を大事にする動きがあります。確かに大切です。しかし、公民館活動には、住民の目線に立ち、地道な粘り強い取り組みも必要かと思えます。

松川町中央公民館
館長 矢澤 登

今年の公民館研究集会は、若者と地域の関わりについて去年から引き継いだテーマを、さらに踏み込んだ形で考えました。まず、今年度、地域と深く関わりながら自分たちの取り組みを行なった中学生・高校生に事例発表をしてもらいその思いを聞きました。そして若者たちに今も将来もこの地域と関わりを持ってもらうために公民館として何ができるのか。そのためにまず若者の考えも知ろうと話し合いました。今回は「ワールドカフェ」という、いくつもの少人数グループにわかれて気楽に話し合えるスタイルで行い、活発に意見を出し合いました。

公民館で結び、若者と地域をつなげる

今どき若者は

第52回公民館研究集会

2月22日(日)

町民体育館

トレーニングルーム



当日も、息の合った演奏を披露していただきました

地域の人たちに学んだこと ～中高生事例発表～

事例発表では、松川高校吹奏楽部・松川中学校2年生・松川高校美術部のみなさんが発表しました。

松川高校吹奏楽部は、松川吹奏楽団と、コミュニケーション

コンサートinまつかわや松川町音楽祭で合同演奏を行い、ひとつのステージをつくり上げてきました。仕事をしながら演奏活動を続けている大人たちの姿に、自分たちも見習いたいと感じたそうです。自分たちで会社を立ち上げお店を開く「チャレンジショップ」の体験をした中学2年生は、実際にお店を経営する地域の人たちから指導を受け、学んできました。起業することの苦労はもちろん、お店を経営するにはいろんな人たちの協力があつて成り立つこと。また、今回の取り組みに協力してくれた地域のみなさんへの感謝の言葉を述べました。



地域とのつながりを力強く発表

らい愛着を持ってもらうために行なわれました。美術部の皆さんは松川町のことを知ろうと地域の人たちに取材を重ね、地域の人々のつながりが地域を支えていると感じ、「わ」をテーマとしたオブジェを制作しました。

ワールドカフェ

7～8人の少人数にわかれて話し合うワールドカフェでは、本館・地区館の公民館部員をはじめ、関係団体、一般の皆さん、そして、この日事例発表をしてくれた高校生のみなさんも加わって、7つのテーマについて意見を出し合いました。

※太字は、これからの公民館活動のヒントになりそうな意見

リニア新幹線が若者に及ぼす影響

- ・若者にも都会に行きたい人、地元に残りたい人の両方いる
- ・松川町が好きなので地元に残り、一人暮らしをしなくてもいいと考える若者もいる
- ・地元の魅力をどんどん県外



【東小】
・自然をいかして天体観測や通学合宿の場所として利用

若者は東小・青年の家の今後をどう考えるか

- ・環境や建設に関しての負担などマイナス面の意見も出た
- ・進学先や就職先がないという、リニアが直接関係のない問題もある
- ・総体的に、マイナス面にも目を向けなければならぬが、良い意見も多く出た

- ・の人に伝えたい
- ・都会へ出てても地元の魅力を再発見して戻ってきてほしい
- ・リニアを単なる交通手段として捉えている若者が多い
- ・田舎の良さをいかし、逆に都会から人を呼び込むこともできる

- ・防音や防振対策がされ、設備はかなり整ったものとなるため、その上での企画を考えることが大事
- ・飲食スペースに自動販売機を設置（ただししゃべるのは難しい）
- ・なんとなく集まれる場所になってほしい
- ・リニアによる環境問題など若者で考えてみてはどうか
- ・「公民館」という名が堅苦

新公民館へ集え若者！

【青年の家】

- ・J1の松本山雅の練習場などとして利用してもらう
- ・キャンプ場整備
- ・インターが近く利便性は良い
- ・とても良い場所ということもあり、残していく方向での意見が多かった

【青年の家】

- ・キノコ栽培や魚の養殖場など産業利用できれば雇用や利益を生み出す
- ・高校生は「ロケ地」として利用してもらえば有名な「アピールしてもらえ」など思いつかないような意見を持っている



- ・「スマホ」という言葉がたくさん出てきた
- ・スマホは悪い影響の話ばかりを耳にするが、若者にとってはグループ間のつながりのための大切なツールであり、良い面もある
- ・若者も1対1でコミュニケーションをとることもあり、スマホに頼ってばかりでは

若者はどんなことに興味を示し、どんな言葉に魅かれるか

- ・利用状況の確認や予約などインターネットでもできるようにしてほしい
- ・体育館の開放日をつくってみたいらどうか
- ・新しいので愛称を募集してほしいかどうか

こんな活動人気です！若者参加急増中!!

- ・吹奏楽の演奏の機会が2ヶ月に1回くらいあると嬉しい
- ・地区公民館の行事にも吹奏楽の演奏に来てほしい
- ・地域と若者で相乗効果のある企画ができれば良い
- ・企画の段階から若者に参加してもらえば主体性がある
- ・具体的な活動はなかなか出ず、やや難しいテーマであった

- ・想像とは違って若者はしっかりとっており、大人もしっかりしななければ
- ・スマホの影響は中学生のころからあり、子どもも親も対象とした、使い方の指導を行なっている
- ・友達同士で集まって黙ってゲームで遊んでいる
- ・オンラインで同じゲームをしているのだが、会話がなく怖い印象もある
- ・若者の半分は将来の夢が決まっているが、将来帰ってくるためには「仕事場があれば」ということだった

描く未来はどんな形？

- ・仕事がある
- ・あいさつが自然にできる町
- ・活気があれば自然とあいさつするようになるのでは
- ・昔の青年団や公民館のような集まりがあればよいが、さらに自由で気軽なものであれば良い
- ・人を集めるときに、公民館に助けてもらえるといい
- ・ほかと勝負できる「ご当地モノ」があるとよい。今もあると思うが、もっと松川町だけの特長が出てくると良い
- ・東小あと利用として、星空観察が有名になれば
- ・くだものの里まつかわらし、りんごワインがあるが、星空観察をしながら飲む

描く未来はどんな形？

- ・「ごごが変われれば理想の地域」



- ・「ごごが変われれば理想の地域」

もおもしろい

- ・地域と高校生が関わるイベントがもつとあると良い。今もあるとすれば情報が行き渡るようにしてほしい
- ・文化、芸術の向上のために、まず高い文化や芸術に興味を持てる人づくりも必要
- ・高校生が入りやすいお店や娯楽施設がほしい
- ・施設が発達すると人が増えるなど環境を整える
- ・インター周辺の広大な農地を強みとするか、開発してしまうかで分岐点になるのでは
- ・リニアによるベットタウン化も考えられる
- ・商業施設に頼るばかりでなく、今ある自然を利用した集客

地域とコラボ、こんな活動はどうでしょう？

- ・まつかわ大学の前に吹奏楽団などに演奏してもらっているが、地域の行事でも演奏してもらったらどうか（公民館がつかないでほしい）
- ・若者から高齢者までが参加できる行事を考え、その行事を通じてつながりをもつ

てもらおう

- ・（若者が）興味を持つことの、専門家を招いた企画があれば参加したい
- ・企画から若者に参加してもらいたい、最後までやってもらおう
- ・行事そのものを知らない若者が多いので、PRも考える必要がある
- ・回覧だけでは見ずに回されてしまうこともある
- ・研究集会に20代30代の若い世代に参加してもらい地域を知ってもらおう
- ・子どもの節目の行事などは夫婦で仕事を休んで参加するが、公民館行事となるとそうはいかない
- ・高校生も趣味や部活などで時間がない
- ・行事のたびにビンゴ大会があるとおもしろい（という事例がある）



平成26年度
松川町公民館
功労者表彰

2月22日(日)に開催された「第52回公民館研究集会」において、中央公民館、各地区公民館の活動にご尽力された12人が表彰されました。



池上 徹



水野 耕一郎



矢沢 希予志



小池 昭博



岩崎 敏宏



鈴木 弘



丹羽 正宣



北林 誠



大澤 健利



荒川 誠



岡村 匡人



片桐 雅美

5 題
問
え
権
考
人
を
仲
良
く
み
ん
な
で

みんなえ顔 下村 麻菜

ジャイカ交流会で、グアテマラのことをいろいろ教えてもらいました。民ぞく衣しようが、とてもカラフルできれいでした。

教室で、三人のグアテマラの方と通やくの方と一しよに、きゆう食を食べました。言葉は分からなかったけれど、みんなえ顔でした。おいしそうに食べていたので、わたしも楽しくなりました。

グアテマラでは、フオークやスプーンで食べているそうなので、はしは使いつらそうでしたが、がんばって使っていてすごいと思いました。

おり紙で交流 大久保 樹

グアテマラの方々と交流会をしました。

きゆう食を食べ終わった後に、みんなでするをおりました。ぼくは、つるのおり方を知らないと思っただけから覚えてもらうように教えてあげようと思いました。

まず、自分がおつてみて、分から



ないところは一しよにありました。ニコリわらってくれてうれしかったです。

「グアテマラの方々に会えて、ぼくは幸せだな。外国の人も、やさしい人がいっぱいいるんだな。」と思いました。

心はつながっている

湯澤 帆花

学校に、グアテマラの国の人が来ました。そして、一しよにきゆう食を食べたり、おり紙をしたりしました。

わたしは、とんだりできゆう食を食べていた時、日本語が通じないので、話しかけようかまよいました。が、思いきって声をかけてみました。

「はしは、むずかしいですか。」一回目は、話しかけただけではだめだったので、二回目ははしを指さしてみました。すると、うなずいてくれました。

その時、わたしは、「ちがう国に住んでいても、同じ人間だから、心はつながっているんだな。」と思いました。

生涯教育のメッカ

松川青年の家だより

（その四十二）

冬の森キャンプ

青年の家では1月末の24日（土）と25日（日）に、小学生による1泊2日の森キャンプを実施しました。今回は松川中央小学校をはじめ高森南小学校、中川西小学校、下条小学校から17名の小学生が参加してくれました。

みんなで餅つき

今回は季節感あふれるキャンプにしようということで、冬と正月にちなんだ活動を中心に展開しました。その一つがみんなで交代しながら杵でついたお餅です。振り上げた杵の重さで腰がふらついて白の縁をたたいてしまい、木のかけらがおもちの中に少し入りましたが、最後にはきれいなおもちがつきあがりました。みんなでそれをこぶし大に丸めて、あんこやきな粉、ゴマをつけていただきました。中には、5個も食べた友達がいきました。残ったお餅は伸し餅にして、次の日の朝食で食べ

ました。初めてだったので、厚さや大きさにムラはありましたが、砂糖醤油をつけた焼き餅の味は格別でした。

名人がいた百人一首大会

夜、お風呂に入ったあとは、和室に集まって百人一首大会です。二組に分かれて輪になり、畳にきちんと座って始めました。部屋には最初笑い声があふれていたのですが、だんだんと緊張感が張りつめてきました。それもそのはず、とにかくすごいんです。「奥山に紅葉踏み分け…」と私の上の句を読んでいる途中なのに、「ハイ。」と叫んで「声聞くとときぞ秋は悲しき」と書かれた札を拾ってしまうのです。そんな友達がたくさんいて、だんだん輪も小さくなり、みんなの顔の距離が近づいてきました。まるで子ども百人一首名人戦を見ているかのようでした。とにかく中央小の6年生女子は強かった。

雪の中のウォークラリー

次の日は、雪の森の中でグループ対抗のウォークラリーをやりました。自分たちで地図を見ながら指定されたコースを歩き、途中のチェックポ

イントで出された問題を解いたり、森の中に隠された木札を探したりしながら規定時間でゴールへ到着するゲームです。ところが、森の中は全面雪の原なので、地図を見ても方向が分からず、コースや木札がなかなか見つかりません。中には地図を読み間違えコースを見失ってしまった、職員の誘導が必要になったグループもありました。また、チェックポイントでは「松川町を取り巻く市町村を全部書きなさい」とか「横の川に手を入れて水温を当てなさい」といった難問に、みんな頭を抱えていました。寒さを忘れ、仲間でする楽しい時間を過ごすことができました。



雪の上で友達と

春が来た あたたかスポーツ

地区対抗冬季弓道大会

2月15日(日)に地区対抗弓道大会が開催されました。

結果は次のとおり。

団体戦

優勝 名子

野牧 初彦
笠原 武明
小沢 誠

準優勝 上新井

岩村 和夫
大蔵 壽春
福澤 隆夫

第3位 上片桐

森岡真理子
竹村 明浩
南島 健

個人戦

優勝 福澤 隆夫
第2位 竹村 明浩
第3位 大蔵 壽春

子ども縄跳び大会

2月22日(日)に松川北小学校体育館にて、子ども縄跳び大会が開催されました。

結果は次のとおり。

最優秀賞

松尾穂野香(北小5年)

時間跳び記録
3分29秒

優秀賞

松下 大祐(中央小5年)

2分46秒

田村 菜桜(中央小5年)

2分06秒

真保栄正幸(中央小4年)

1分16秒



弓道教室開催のお知らせ

主催：松川町弓友会
共催：松川町教育委員会 松川町公民館
対象者：学生、松川町民、松川在勤者(学生は、高校生以上)
日時：5月14日(木)より 毎週月、木曜日
夜7時から2時間くらい 20回にて終了予定
場所：松川町弓道場(名子地区)
持ち物：町に道具があります。胸にボタンの無いシャツ
費用：スポーツ保険加入代
申し込み先：松川町中央公民館
(TEL:36-2622・FAX36-6620)

申込締切：5月13日(水)
近年生涯スポーツとして、弓道の愛好家が増加しています。また青少年健全育成という観点からも『礼』に始まる武道が、注目されています。
何歳からでも始められ、男女の区別もありません。またかなり高齢になっても続けられます。町長も生涯学習の必要性を多くに推奨しています。
高校や大学で弓道に親しんでいたが現在中止している方、是非私達の仲間になってください。
何時からでも始められます。月、木曜日のいつでも、空いた時間に来てください。

一団員募集— 松川少年少女合唱クラブ

対象：小学校2年生から高校生まで
練習日時：第2、第4木曜日
18:00~19:30(月2回)
練習会場：松川町社会福祉協議会 多目的ホールほか
講師：声楽家 堀内千鶴子先生・堀内千咲先生
入団金：1,000円(入団月のみ)
クラブ費：2,000円/月
(さまざまな諸経費として、入団月から)
月2回だけ！スポーツクラブに入っているお子さんも大丈夫です。
からだ全体を使ったボイス・トレーニングを行い、よい姿勢、よい発声、そしてよい笑顔で歌えるよう、一人ひとり、ていねいにご指導いただいています。
町の音楽祭や地区の行事などでの発表等、地域に根ざした活動をしています。昨年は社協「ふれあい広場」のオープニングセレモニーに招いていただき、うたけん合唱団と一緒に歌いました。
見学はいつでもOK。お気軽にどうぞ。

お申込み、お問合わせ 松川町中央公民館
TEL：36-2622・FAX：36-6620



毎月第3日曜日は 家族ふれあう 「家庭の日」

あれ? どうしたの? 認知症?
…住み慣れた地域で支え合い…
第33回福祉を考える集会 2月14日(土)

認知症は今や、ひとごとではなく、なつています。4人に1人が認知症とその予備軍と言われている今、避けるのではなく理解すること、積極的に向き合うことが必要ではないでしょうか。

今回、地域包括支援センターの北沢さんのお話で分かったこと。まだまだ伸びしろがあること。まだまだ伸びしろがあるとわかり、ほっとひと安心。ただ、それは取り出すことができないという意味がない! ということで、実際に脳の「メモ機能」、「ワーキングメモリ」を鍛えるトレーニングを行いました。最初はなかなか指示された動作ができずに悪戦苦闘。しかし、「できなくてあがくこと」「脳トレになると聞いて、大きくうなずく聴講者の皆さん。



集会では、各種団体の物品販売がありました

心の生活に。家の外に出る事も減り、自分だけ取り残された気分の日が続くようになられたそうです。でも、近所の方に事情を説明し協力を得られた時、気持ちに余裕がもてたと話されました。

住みなれた地域の人達に見守られ支えられながら、より明るく生活していこうと思いを新たにしたい学習会でした。

脳を鍛える活脳トレーニング

まつかわ大学第4講座

町民体育館トレーニングルームの客席は、大入り満員! テレビやラジオでおなじみの「はげひげ先生」こと篠原菊紀先生が、まつかわ大学第9期の最後を飾ってくださいました。

まずお話しくださったのは、脳機能はだんだん衰えていくと考えがちですが、脳は知識や経験をためこんでいく「メモリーマシン」であり、年を経ることに充実していくという

日常生活で脳をわかりやすく紹介してください、聴講者の方も真剣にメモをとっておられました。

登場から降壇まで、先生の軽妙な語り口と百面相で会場を笑いの渦に巻き込んだ、脳が喜ぶ「講演会となりました。第10期のまつかわ大学もお楽しみに!

講師の篠原菊紀さん



講師の篠原菊紀さん

こころの詩

黒ばんけしおすし
 東小2年 河村 悠
 ぼくは、黒ばんけし。いつもキョッキョッキとなつている。

へい校はさみしいけれど、へい校するまで、黒ばんに、書かれた文字や数字、絵をいっぱいけしていききたい。

だれもいなくなる前にしごとをいっばいしておわりたい。

とだながら

東小2年 清水奏乃
 ぼくはとだながら。みんな学校からいなくなつてしまつ、と思つていたら2年間たつてしまった。

まだ2月3日あるからと思つて、これからもがんばつて本やかみしばいとがも入れてものをおくぞー。

川柳

岩崎春村(名子中部)
 地球上争い絶えず明け暮れる
 腕力で降伏しても盛り返す
 車椅子押す手は温い恕の心
 人類は全知全能絞り出し
 つくり出せ前人未到平和の世

短歌

湯澤順子(増野)
 枯葉散る白木蓮の 大木は
 早くも春の息吹き抱きおり
 沓き日の記憶の中 にいるような
 花桃の里に 父母と佇む
 目覚めたる大地の 温みを感じつつ
 今年も頼むと りんご樹なでる
 カタカタと歩行器を 押して歩き初む
 幼は「どうだ」と言わんばかりに
 大豆味噌の 香り漂う工場に
 味噌玉作りし 幼日想う



西国三十三所観音巡礼を供養して造立。



「西国三十三所観音」(円通庵)

まちの石仏 ③⑧



地域デザインプロジェクトで制作したオブジェ

上大島地区公民館 文化芸能祭



生田地区公民館 芸能文化祭

2022年

先日、菱田春草の幻の文展出品作が東京で発見され、それを撮影する機会を得ました。地元紙に一面で大々的にとりあげられていたので、ごらんになった方も多いと思います。下図だけとはいえず、間近でみる筆跡はやはり迫力のあるものでした。

春草はご存じのとおり36才で夭折したため作品数が少なく、新発見ということは稀でたいへん貴重な資料となるといえます。

「雨中美人」と題されたこの未完成屏風絵は六曲一双の大作ですが、着物の着色がうまくいかず締め切りの数日前に断念してしまったそうです。そのかわりにたった5日間で描き上げた作品が、後に国の重要文化財に指定されるあの「黒き猫」だったそうです。歴史のいたずらとでもいいますか、なにかとてもドラマチックな話です。

この作品は飯田市美術博物館でこの21日から展示されるそうです。完成作品ではありませんが、かえって人間としての春草にふれることができそうな気がしませんか。(宮下 徹)

公民館報
「まつかわ」
第 617 号
平成27年 3月15日
発行所 松川町公民館
責任者 矢澤 登
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: c.kouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)

再生紙を使用しています。